

今年こそ

決着をつけて、あの空へ帰りたい

西予市在住
大池ひとみ

新年あけましておめでとうございます。変わらぬご支援いつもありがとうございます。

新しい年を迎えて、あれからもう1年経つてしまったのかと月日の速さに驚いています。2017年初頭、今年こそ解決したい、やることはなんでもやると息巻いていたのに・・・。

ち走り回っている姿を自分で俯瞰して、思わず苦笑い。やつぱり、私はこういう仕事が好きなんだ、なんとか1日も早く現場に戻りたい。添乗員という仕事も嫌いではありませんが、やっぱり、私は機内で働いているときが一番幸せなんだと痛感しました。

『♪たたた一枚の紙切れで』
『ケーブル』2000号記念レセ

すべてのフライトを奪われ、自宅
マンションが松山市内で開かれました。(裏面に続く)

辱の日からはや7年。ラストフライトを済ませない限り、私の客室乗務員としてのけじめがつきません。人生において、長く携わった仕事に対する区切りがつきません。今年こそ、決着をつけて、あの空へ帰りたい！

昨年11月にNTTの職場新聞

「ケーブル」2000号記念レセ

ンションが松山市内で開かれました。(裏面に続く)

お正月を海外で迎えることは慣れっこになつていましたし、汗をかきながら、お客様のためにあちこ



2017.11.30 職場新聞「ケーブル」2000号レセプション於て

私は休みない 今年を、JAL争議と安倍政権の 「終わりの始まり」の年にしたいから

支える会世話人 滝澤 哲也

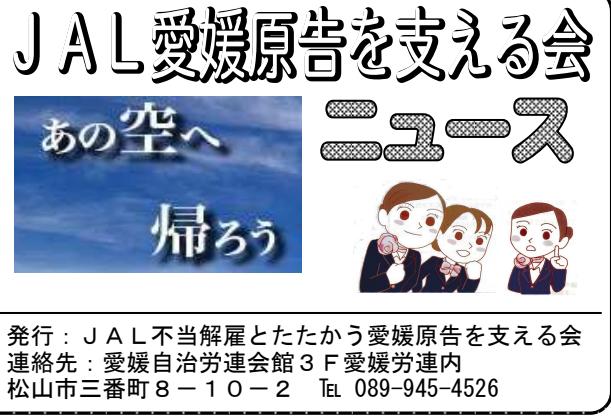
7年目の大晦日が来ようとしていた12月20日に、2017年最後のJAL争議団の宣伝行動を市駅前で行った。いつなく参加者は大勢だった。チラシを手渡す動きも素早く、社会を支える働く者が夢も希望も持てず、不安だらけの国に未来はないと、参加者は偽りの議席で暴走する安倍政治に怒っていた。JAL争議団は「雇用破壊は社会をダメにする」「解雇の自由化反対、解雇の金銭解決は絶対に許せない」と訴え続けてきた。

愛媛の争議団はこつこつ活動し続け、市民運動にも積極的に関わり根を張ってきた。他団体の活動にも、我がことのように取り組む姿には定評がある。ある解雇撤回裁判を闘う労働者の激励集会に参加した際、JAL争議団の林さんが「原告は孤独です。24時間が闘いです。

皆さんは違って緊張の連続なのです。こうした原告を支えるのは、ここに参加している皆さんです！」と訴えていたことを思いだす。24時間が闘いで緊張の連続の争議団を、支援者として「いかに支えるか」「いかに支援の輪を広げるか」が今年の課題である。

私は休みない。
今年をJAL争議と安倍政権の「終わりの始まり」の年にしたいから。

私も
応援します



発行：JAL不当解雇とたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526

今年こそ 勝利解決を!! 争議団 元気なスタート



2018.1.12 新春合同旗開き

新春合同旗開き当日の西予市宇和町明間
雪に覆われた大池さんの居所

40年の長きにわたり、毎週発行し続けたみなさんの努力に脱帽です。どんなに大変だったのか、家族を巻き込んでの苦労話や、それまでの思い出を綴った映像、歴史を語る小冊子を拝見して、私は感動するとともに、とても恥ずかしくなりました。

解雇されてからこれまで、多くの方にご支援をいただき、励まされてきました。この解雇は不当なんだから、おかしいでしょ、職場復帰できるよう一緒に闘つてくるべきであります。裁判傍聴してくださいよ、集会に来てくださいよ、物販買ってくださいよ、カンパしてくださいよ、街頭宣伝に参加してくださいよ。振り返ってみたら、おもしこれで7年でした。もちろん、ほかの争議を抱えている

方々と励まし合いながらここまで来たことも事実ですが、地元松山で、何の縁もゆかりもない見知らぬ私たちに救いの手を差し伸べ、支える会を作つて下さり、暑い日も寒い日も雨の日も雪の日もともに活動してくださっている仲間がいることにもつともつと感謝しなければいけないとしみじみ感じたのでした。

私たちがJAALに入社する前の時代から、会社の理不尽な仕打ちにノートと声をあげ、頑張つて闘い抜いてきたみなさん、すごい方々だつたんだ、と今更ながら思い、そんなみなさんの偉大さに気がつきました。神に試されている気がします。「ケーブル」20000号記念のレスポンションで、私は、この闘いを続けていく上で3つのキーワードを心に刻みました。「気力」「体力」「知力」です。

絶対に諦めません!そして、みなさんに早く恩返しがしたいです。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。